



はだか麦を使ったおはぎを販売 伊予農業高等学校生開発「プチプチおはぎ」

はだか麦を使用した「プチプチおはぎ」が、1月22日、2月1、15日の3日間、エミフルMASAKIなどで販売されました。このおはぎは、伊予農業高等学校の生徒が開発し、あわしま堂が商品化したもの。2月1日、エミフルMASAKIでは生徒たちが店頭に立ち、来店者に自慢のおはぎを販売しました。

販売をした3年の伊賀上采美さん＝宗意原＝は、「多くの人が手に取ってくれたことがうれしい」とほえんでいました。
④こしあん、きなこ、ゆずあん、よもぎの4種類
⑤エミフルでは用意した120個が完売



子どもを産み育てなくなる社会のために ベビーファースト運動

町は1月30日、「ベビーファースト運動」に参画しました。この運動は、公益社団法人日本青年会議所が令和3年1月から展開しているもの。みんなで赤ちゃんを育ていく優しい社会を目指し、子育て世代が子どもを「産み育てなくなる」社会を実現するための運動です。

町は「子どもと家庭、地域や社会が笑顔であふれるまち」という基本理念の下、子ども・子育て支援事業を推進していきます。
④活動宣言書に署名する岡本町長
⑤岡本町長と日本青年会議所の皆さん



まつまえ町の味を堪能 姉妹都市給食交流

姉妹都市提携を結んでいる本町と北海道松前町は、1月20日、互いの食文化を子どもたちに体験してもらうため「給食交流」を行いました。松前町では、町内の小中学校で、ほっけのすり身が入った三平汁、スルメイカを使った松前漬けや、じゃがいもの産地である松前町にちなんだ、のりポテチを提供。

松前小学校6年生の小村龍輝さん(写真④)と門田陽咲さん(写真⑤)は、「初めて食べた三平汁と松前漬けがおいしかった。また食べてみたい」と口をそろえ、寺内陸さん(写真⑥)は、「のりポテチは青のり風味が最高だった」とにっこり。

子どもたちは、給食を食べながら、松前町に思いを寄せていました。



- ④松前漬けをパクッ
- ⑤松前町の給食
- ⑥松前町の給食(愛媛県産牛肉を使ったビーフシチュー、サトイモコロッケ、みかんジュース)



石丸幸子さんを委嘱 人権擁護委員

1月1日付で、法務大臣から石丸幸子さん＝筒井＝が人権擁護委員に委嘱されました。

人権擁護委員は、原則毎月第4水曜日、文化センターで皆さんの身の回りの人権に関する相談に応じています。相談は無料で、秘密は厳守します。

詳しくは、毎月の広報のお役立ちカレンダーをご覧ください。



地域のために役立てて 松前ライオンズクラブが町に寄付

松前ライオンズクラブ(松下弘会長)は2月8日、奉仕活動の一環として、町に30万円を寄付しました。

松下会長から目録を受け取った岡本町長は、「ありがたく頂戴し、町のために有効に使わせていただきます」と話し、感謝状を贈りました。

この寄付金は、福德泉公園に時計塔を設置するために使用されます。



元気が出るまちづくりを目指して 松前町公民館研究大会・生涯学習推進大会

「第44回松前町公民館研究大会・令和4年度松前町生涯学習推進大会」は2月5日、文化センターで開かれ、約200人の参加者が公民館活動の充実のため理解を深めました。

シンポジウムでは、愛媛大学社会連携推進機構教授の前田眞さんをコーディネーターに迎え、元気が出るまちづくりについて3分館が事例を発表しました。

出作分館は、「元気が出るまちづくり 好きです出作!!」をテーマに報告。弓達耕二分館長は、『結ぶ力』を信じて、分館活動を絶やすことなく復活させていきたいと話していました。

南黒田分館は、「新しい視点を中心とした未来に繋げる分館活動」をテーマに報告。磯道哲之分館主事は「地域住民の知恵を出し合い、未来へつなぐ分館活動を行っていきたい」と話していました。西高柳分館は、「代替行事で子どもたちとのふれあいを継続」と題して報告。山下剛志分館主事は「みんなの知恵とコミュニケーションで一つずつ課題を解決していきたい」と話していました。

記念講演では、杏林大学名誉教授・山梨県立図書館館長の金田一秀穂さんが、中国の古典について触れながら、「地域活動を通して、古い知恵を日本語で若い人に残してほしい」と訴えました。



④『心地よい日本語』～日本一受けたい日本語授業～』と題して行われた金田一さんの講演

⑤左から、事例発表した弓達分館長、磯道分館主事、山下分館主事

▶公民館活動功労者表彰 (分館役員5年以上) 太田美和(徳丸)、兵頭敏博(中川原)、升田年紀(大溝)、佐伯満孝(北黒田)、岡田裕二(本村)、郷田智成(大間)、仙波賢藏(上高柳)、山口明久(西古泉) (敬称略)